

大学名	名古屋大学		
University	Nagoya University		
学部/研究科	情報学研究科		
Faculty/Department	Graduate School of Informatics		
研究指導者	齋藤 洋典	職名	教授
Research Advisor	SAITO Hirofumi	Position	Professor
帰国留学生	劉 涛		
Former International Student	LIU Tao		
派遣期間	2017年10月15日 ~2017年10月22日 (8日間)		
Period of Stay	8 days (Oct. 15, 2017- Oct. 22, 2017)		

### <帰国留学生プロフィール/Profile>

国籍	中国
Nationality	China
所属機関	浙江大学
Affiliation	Zhejiang University
現在の職名	特聘研究员
Position	Principal Investigator
研究分野	認知科学
Major Field	Cognitive Science



Principal Investigator ,Zhejiang University. Dr.LIU Tao

### <研究指導者からの報告/Research Advisor Report>

#### ①研究指導概要 / Outline of Research Guidance

帰国留学生である劉涛君が所属する中国の浙江大学(杭州)と、同君が共同研究を行っている華東師範大学(上海)での研究の現状(実験環境、学生の研究テーマ、研究資金等)について話し合うとともに、両大学の研究者と今後の認知神経科学の動向について話し合った。さらに両大学の学部生と大学院生に対して将来の認知神経科学の潮流に関する講演を行い、かつ学部生と大学院生による口頭発表を聞き、研究内容に対して指導的コメントを与えた。加えて、今後、劉涛君との共同研究の可能性を話し合い、まず共同でreview論文を執筆するためのテーマを確定した。

#### ②研究指導の成果 / Results of Research Guidance

本プロジェクトによって得られた研究指導の成果は以下の4点である。1) 帰国留学生の勤務する浙江大学および共同研究を行っている華東師範大学の研究環境および学生の資質に関する理解が深まった。2) 中国の学部生がおかれている社会的状況と、その中で日本に留学を希望する学生への対応方法への認識が促進された。3) 帰国留学生の国情と本人の希望を考慮し、引き続き共同研究する際に、今後の研究で目指すべき具体的なテーマについて膝を交えて話し合う機会を得た。4) すでに共同で行ってきた研究の拡充ではなく、その延長線上に全く新しい研究テーマを開拓し確立するために、まず共同でreview論文を執筆するという明確な方針を決定した。

#### ③訪問大学等での学術交流 / Scholarly Exchanges Done at Universities Visited, etc.

浙江大学と華東師範大学において学部生と大学院生を対象として、認知神経科学の新しい流れについて講演を行ない、学生たちからの質問に答えた。また、華東師範大学では、講演後に学部生と大学院生の研究発表を聞き、研究内容に対して具体的なアドバイスを与えた。華東師範大学側からは来年の学会への招聘を受けた。これらの経験とその後の交流から得た印象を、我が国との類似点(A)と相違点(B)に大別して述べる。しかし、便宜的な区分に先立ってまず念頭におくべきことは、中国の学部生や中国への留学生を含めた大学生の数の多さと、その多様性が作り出す「競争意識」の強さである。この競争意識は、新奇な対象への好奇心(他国への留学希望)として発揮されるとともに現実の社会問題を可視化する(誰の目にも分かりやすく示す)機能をもつと考えられる。例えば、浙江大学で認知神経科学の分野で、私たちがすでに実施した基礎研究と現在進行中の応用現研究について話した。質問が集中した応用研究の事例では、認知神経科学が、今後、老化に伴う意思決定の難しさをいかにとりあげ、解決するかを問題として提起した。具体的には、(1) 高齢者施設に入居を希望する高齢者、(2) 施設の設計者(デザイナー)、(3) 施設建設への出資者の3者の「幸せ」をトータルに最大にするために、いかなる研究が必要で、その実現可能性をどのように評価すべきかを問うた。学生たちは、そこにすでにあるものよりは、あらんとするものを捉えようとする講演者の意識に敏感に反応し、興味と関心を示した。我が国との類似点(A): (A1)中国での重点大学校においても学部から大学院に進学する際に海外(例えば米国)の有名校を選択し、中国の重点校の大学院には、中国の他大学の学部から重点校の大学院への進学が多く認められる。また上海などの都市部ではいわゆる富裕層が増え、学部に入學する段階で海外の有名大学を目指す高校生が増加している。(A2)基礎研究に進む大学院生(我が国での修士の学生)と、企業に就職を希望する学生の資質に違いが認められる。(A3)中国での重点校のうち、いわゆる総合大学と師範大学(我が国の教育大学)との学生の資質の差は、我が国とも類似する。我が国との相違点(B): 浙江大学の学生に対する施設は、我が国の大学と大きく異なる点が認められる。(B1)浙江大学の全学部学生が4人部屋での寮生活を求められ、留学生は留学生用の建物で2人部屋での学生生活求められる。その施設利用に学生が負担する年間の費用は我が国の水準では施設維持費程度である。この制度設計は、全寮制の高等教育を想起させるが、その収容人数の規模が全く異なる。ただし学生寮には自炊施設はなく、そのために大学キャンパス内での食堂が充実しており、学生の勉学の支えとなっている。学生数の多さが作り出す競争意識と切磋琢磨、その光と影を考える機会を得た。

<帰国留学生からの報告/Former International Student Report>

①研究指導の成果 / Results of Research Guidance

1. Had more clear direction for my future research.
2. Many students had more knowledge about Japan and issues of studying in Japan.
3. Fixed a plan for next collaboration.

②今後の計画 / Further Research Plan

How to make a good design for customers is an important question for both customers and society. To address this issue, we planned to use brain-imaging technique, especially the fNIRS-based hyperscanning technique, to examine effects of empathic concern to customer on design, and wrote first a review paper on this topic.

③本事業に対する意見・感想等 / Your general impression and opinion about the Follow-up Research Guidance

It is a very useful program to promote collaboration on research, and important way to increase connections to Japan. In addition, it is also helpful for foreign students to understand issues of studying in Japan, which in turn enhances their motivation to study in Japan.



華東師範大学 心理と認知科学研究科  
East China Normal University, the school of Psychologic and Cognitive



浙江大学  
Zhengjiang University